

平成 14 年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）

1. 概況

平成 14 年中の人口増加は 13,049 人（第 1 表，第 1 図）

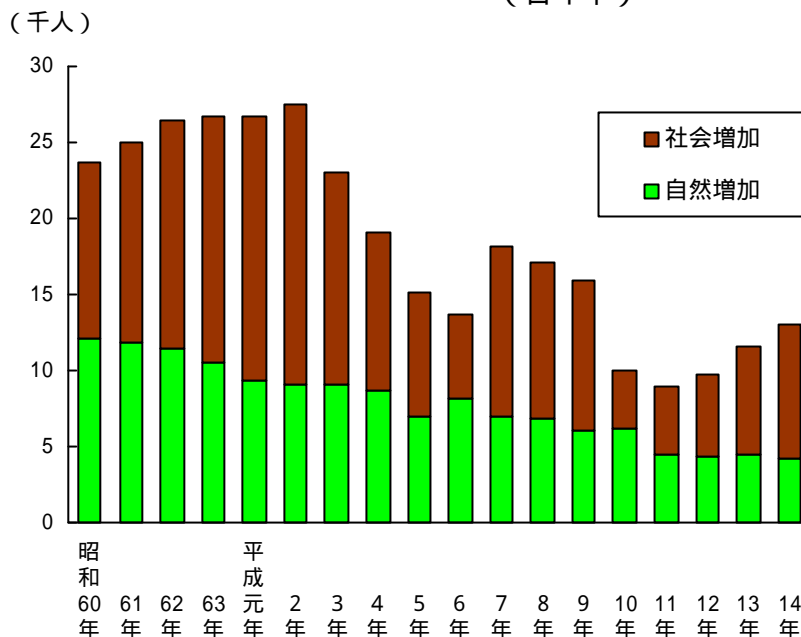
住民基本台帳による平成 14 年中の人口増加は 13,049 人と，前年（11,635 人）を 1,414 人上回った。人口増加規模についてここ数年の推移をみると，7 年の 18,177 人から 11 年の 8,900 人まで縮小が続いていたが，12 年以降拡大が続いている。

人口増加を自然増加（出生 - 死亡）と社会増加（転入 - 転出）に区分し，ここ数年の推移をみると，自然増加は，7～10 年は縮小傾向を示しながらも 6 千人台で推移していたが，11 年以降は 4 千人台で推移しており，14

年は 4,273 人となっている。また，社会増加は，8～10 年は縮小していたが，11 年からは拡大しており，14 年には 8,776 人となり，前年と比べ 1,674 人の増加となっている。

人口増加に占める自然増加と社会増加の割合についてみると，7～9 年にかけては自然増加が約 4 割，社会増加が約 6 割でほぼ一定だったが，10 年にはこの割合が逆転し，自然増加が 61.6%，社会増

第 1 図 自然増加及び社会増加の推移
（各年中）



注：住民基本台帳による数値であり，社会増加には区間移動及び職権等による増減を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第 1 表 人口動態の推移

住民基本台帳による。

年次	人口動態			割合 (%)		
	人口増加	自然増加	社会増加 1)	人口増加	自然増加	社会増加 1)
昭和 60 年	23,716	12,073	11,643	100.0	50.9	49.1
昭和 61 年	25,082	11,893	13,189	100.0	47.4	52.6
昭和 62 年	26,550	11,507	15,043	100.0	43.3	56.7
昭和 63 年	26,728	10,530	16,198	100.0	39.4	60.6
平成 元年	26,753	9,419	17,334	100.0	35.2	64.8
平成 2 年	27,520	9,145	18,375	100.0	33.2	66.8
平成 3 年	23,146	9,114	14,032	100.0	39.4	60.6
平成 4 年	19,055	8,634	10,421	100.0	45.3	54.7
平成 5 年	15,113	7,015	8,098	100.0	46.4	53.6
平成 6 年	13,666	8,112	5,554	100.0	59.4	40.6
平成 7 年	18,177	6,921	11,256	100.0	38.1	61.9
平成 8 年	17,169	6,875	10,294	100.0	40.0	60.0
平成 9 年	15,909	6,052	9,857	100.0	38.0	62.0
平成 10 年	10,080	6,207	3,873	100.0	61.6	38.4
平成 11 年	8,900	4,489	4,411	100.0	50.4	49.6
平成 12 年	9,754	4,361	5,393	100.0	44.7	55.3
平成 13 年	11,635	4,533	7,102	100.0	39.0	61.0
平成 14 年	13,049	4,273	8,776	100.0	32.7	67.3

注：1) 区間移動及び職権等による増減を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

加が38.4%と、自然増加の割合が高くなった。しかし、その後は社会増加の割合が上昇しており、14年では自然増加の割合が32.7%、社会増加の割合が67.3%と、前年(自然増加39.0%、社会増加61.0%)よりも社会増加の割合は高まっている。

2. 自然動態

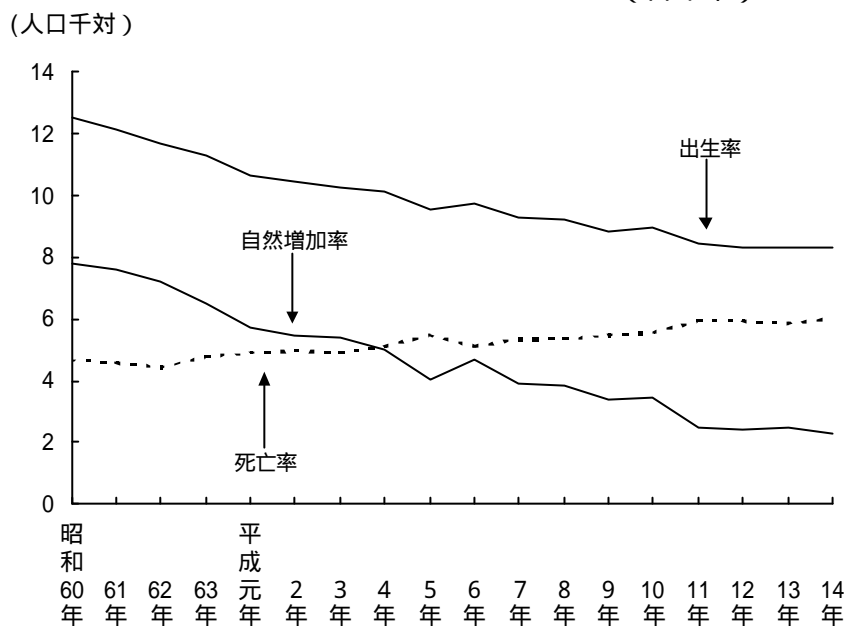
平成14年中の出生数は15,382人で前年を105人上回った(第2表、第2図)

平成14年の自然動態をみると、出生数は15,382人と、前年(15,277人)を105人上回った。また、死亡数についても11,109人と前年(10,744人)を365人上回っている。

自然動態について昭和60年以降の推移を人口千人当たりの比率でみると、まず、出生率(人口千人当たりの出生数)については、概ね低下傾向を示しているが、平成11~14年は8.3~8.4で推移している。次に、死亡率(人口千人当たりの死亡数)をみると、昭和63年以降上昇傾向を示していたが、平成11~14年は5.9~6.0とほぼ一定となっている。

出生率と死亡率がこのように推移したため、人口千人当たりの自然増加の比率は10年まで、ほぼ低下傾向を続けていたが、11~14年は2.3~2.5で推移している。

第2図 出生率、死亡率及び自然増加率の推移
(各年中)



注：住民基本台帳による数値であり、国勢調査人口及び推計人口(各年10月1日現在)を用いて比率を算出している。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第2表 自然動態の推移

住民基本台帳による。

年次	自然動態			比率(人口千対) 1)		
	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡
昭和60年	12,073	19,288	7,215	7.8	12.5	4.7
昭和61年	11,893	19,052	7,159	7.6	12.2	4.6
昭和62年	11,507	18,569	7,062	7.2	11.7	4.4
昭和63年	10,530	18,261	7,731	6.5	11.3	4.8
平成元年	9,419	17,468	8,049	5.7	10.6	4.9
平成2年	9,145	17,459	8,314	5.5	10.4	5.0
平成3年	9,114	17,446	8,332	5.4	10.3	4.9
平成4年	8,634	17,379	8,745	5.0	10.1	5.1
平成5年	7,015	16,483	9,468	4.1	9.5	5.5
平成6年	8,112	17,016	8,904	4.7	9.8	5.1
平成7年	6,921	16,306	9,385	3.9	9.3	5.3
平成8年	6,875	16,367	9,492	3.9	9.2	5.3
平成9年	6,052	15,859	9,807	3.4	8.9	5.5
平成10年	6,207	16,216	10,009	3.4	9.0	5.5
平成11年	4,489	15,246	10,757	2.5	8.4	5.9
平成12年	4,361	15,182	10,821	2.4	8.3	5.9
平成13年	4,533	15,277	10,744	2.5	8.3	5.9
平成14年	4,273	15,382	11,109	2.3	8.3	6.0

注：1)「比率」算出に用いた人口は、国勢調査人口及び推計人口(各年10月1日現在)である。

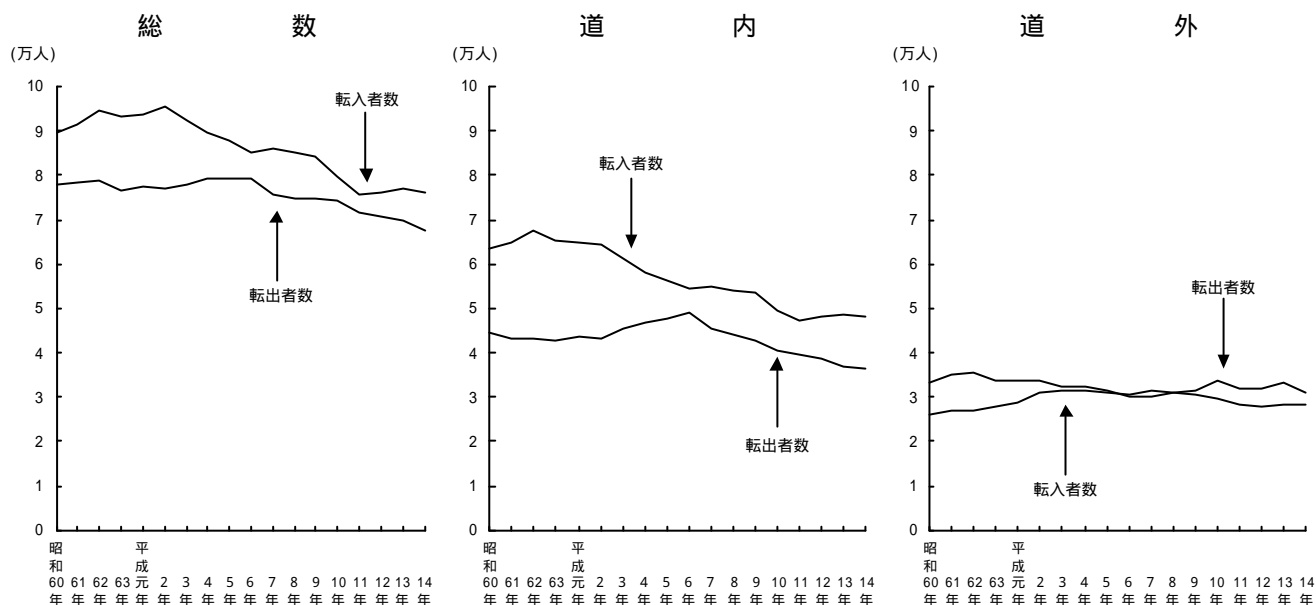
<資料> 企画調整局企画部企画調査課

3. 社会動態

平成14年中の転入超過数は8,874人と前年(7,186人)を1,688人上回る(第3表, 第3図)

平成14年中の社会動態をみると, 市外から札幌市への転入者数は76,296人と前年(77,180人)を884人下回っている。これを道内・道外別にみると, 道内からの転入者数は48,189人, 道外からの転入者数は28,107人といずれも前年(それぞれ48,789人, 28,391人)を下回っている。転入者数について, 最近の推移をみると, 総数では3年以降, 減少傾向を示してきたが11~14年は7万5千人~7万7千人台で推移している。これを道内・道外別にみると, 道内からの転入者数は昭和62年(67,460人)をピークとして, 63年以降減少傾向にあり, 平成4年(57,985人)には6万人を, 10年(49,700人)には

第3図 道内・道外別転入・転出者数の推移
(各年中)



注: 住民基本台帳による。
<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第3表 道内・道外別転入・転出者数の推移

住民基本台帳による。

年次	転入者数			転出者数			転入超過数		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
昭和60年	89,838	63,610	26,228	78,106	44,582	33,524	11,732	19,028	7,296
61年	91,605	64,766	26,839	78,588	43,258	35,330	13,017	21,508	8,491
62年	94,509	67,460	27,049	78,766	43,193	35,573	15,743	24,267	8,524
63年	93,091	65,160	27,931	76,532	42,728	33,804	16,559	22,432	5,873
平成元年	93,726	64,873	28,853	77,301	43,655	33,646	16,425	21,218	4,793
2年	95,301	64,397	30,904	76,966	43,253	33,713	18,335	21,144	2,809
3年	92,320	61,057	31,263	77,871	45,321	32,550	14,449	15,736	1,287
4年	89,557	57,985	31,572	79,045	46,722	32,323	10,512	11,263	751
5年	87,659	56,532	31,127	79,529	47,882	31,647	8,130	8,650	520
6年	85,052	54,440	30,612	79,248	49,008	30,240	5,804	5,432	372
7年	86,238	54,691	31,547	75,629	45,480	30,149	10,609	9,211	1,398
8年	85,017	54,143	30,874	75,015	44,146	30,869	10,002	9,997	5
9年	84,038	53,625	30,413	74,560	42,949	31,611	9,478	10,676	1,198
10年	79,563	49,700	29,863	74,464	40,503	33,961	5,099	9,197	4,098
11年	75,735	47,380	28,355	71,426	39,422	32,004	4,309	7,958	3,649
12年	76,059	48,348	27,711	70,882	38,804	32,078	5,177	9,544	4,367
13年	77,180	48,789	28,391	69,994	36,952	33,042	7,186	11,837	4,651
14年	76,296	48,189	28,107	67,422	36,347	31,075	8,874	11,842	2,968

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

5万人を割り、12年以降は4万8千人台の推移となっている。一方、道外からの転入者数は2～9年にかけては3万1千人前後で推移していたが、10年(29,863人)には3万人を割り、11年以降は2万8千人程度で推移している。

14年における札幌市から市外への転出者数は67,422人と、前年(69,994人)を2,572人下回っている。これを道内・道外別にみると、道内への転出者数は36,347人と前年(36,952人)を下回っており、道外への転出者数も31,075人と前年(33,042人)を下回っている。転出者数について、最近の推移をみると、総数では7～10年にかけては7万5千人前後で推移していたが、11年に71,426人へと大幅に減少し、その後も減少が続いている。これを道内・道外別にみると、道内への転出は6年の49,008人をピークとして7年以降減少が続いている。また、道外への転出は、5～9年は3万～3万1千人台で推移していたが、10年には33,961人と増加を示した。その後、11年、12年は3万2千人程度、13年は33,042人となったが、14年には31,075人に減少した。

14年の転入超過数(転入者数-転出者数)をみると、総数では8,874人の転入超過となっており、前年(7,186人)を上回っている。道内・道外別にみると、道内との関係では11,842人の転入超過となっているが、道外との関係では2,968人の転出超過となっている。ここ数年の推移をみると、総数では転入超過規模は8年以降縮小を続け、11年に4,309人となったが、12年以降は拡大している。これを道内・道外別にみると、道内との関係では、常に転入超過の状態が続いており、その規模は10年、11年は縮小していたが、12年には拡大に転じ、13年、14年では1万1千人台で推移している。また、道外との関係では、6～8年には転入超過であったが、9年以降は転出超過が続いている。

4. 道内地域別転入・転出者数

「周辺5市と石狩郡部」が転入超過となった(第4表)

道内を「主要8市」(函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市、苫小牧市)、「周

第4表 道内地域別転入・転出者数の推移

住民基本台帳による。

年次	総数	主要8市1)	周辺5市と石狩郡部							その他の市部	その他の郡部
			総数	周辺5市					石狩郡部2)		
				江別市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市			
転入者数											
平成9年	53,625	22,793	8,171	2,684	1,204	922	1,247	1,488	626	9,625	13,036
10年	49,700	21,255	7,370	2,238	1,217	759	1,238	1,267	651	8,774	12,301
11年	47,380	20,322	7,795	2,362	1,245	816	1,240	1,458	674	8,116	11,147
12年	48,348	20,414	8,202	2,378	1,290	1,028	1,369	1,478	659	8,200	11,532
13年	48,789	20,783	8,090	2,353	1,278	926	1,359	1,547	627	8,407	11,509
14年	48,189	20,565	8,152	2,368	1,338	964	1,440	1,383	659	8,113	11,359
転出者数											
平成9年	42,949	16,774	10,449	3,553	1,314	949	1,999	1,778	856	6,551	9,175
10年	40,503	16,200	8,817	2,798	1,193	860	1,671	1,605	690	6,370	9,116
11年	39,422	15,602	9,208	2,933	1,132	766	1,856	1,841	680	5,941	8,671
12年	38,804	15,547	8,864	2,522	1,251	841	1,829	1,815	606	5,808	8,585
13年	36,952	14,869	8,304	2,317	1,189	900	1,758	1,615	525	5,626	8,153
14年	36,347	14,649	8,090	2,207	1,194	947	1,658	1,618	466	5,674	7,934
転入超過数											
平成9年	10,676	6,019	2,278	869	110	27	752	290	230	3,074	3,861
10年	9,197	5,055	1,447	560	24	101	433	338	39	2,404	3,185
11年	7,958	4,720	1,413	571	113	50	616	383	6	2,175	2,476
12年	9,544	4,867	662	144	39	187	460	337	53	2,392	2,947
13年	11,837	5,914	214	36	89	26	399	68	102	2,781	3,356
14年	11,842	5,916	62	161	144	17	218	235	193	2,439	3,425

注：1) 函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市及び苫小牧市。2) 当別町、新篠津村、厚田村及び浜益村。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

辺5市と石狩郡部」(江別市,千歳市,恵庭市,北広島市,石狩市,当別町,新篠津村,厚田村,浜益村),「その他の市部」及び「その他の郡部」の4地域に分けて,平成14年の転入者数,転出者数,転入超過数をみってみる。まず,転入者数については,「主要8市」から20,565人と最も多く,以下,「その他の郡部」が11,359人,「周辺5市と石狩郡部」へが8,152人,「その他の市部」が8,113人となっており,前年と比べると,「周辺5市と石狩郡部」では増加しているが,他の3地域では減少している。

また,14年の転出者数については,「主要8市」が14,649人と最も多く,以下,「周辺5市と石狩郡部」が8,090人,「その他の郡部」が7,934人,「その他の市部」が5,674人となっており,前年と比べると,「その他の市部」では増加しているものの,他の3地域では減少している。

次に,14年の転入超過数をみると,「主要8市」が5,916人と最も多く,以下,「その他の郡部」が3,425人,「その他の市部」が2,439人,「周辺5市と石狩郡部」が62人と全ての地域で転入超過となっている。前年と比べると,「主要8市」,「その他の郡部」の転入超過規模は拡大しており,「その他の市部」の転入超過規模は前年と比べ縮小している。「周辺5市と石狩郡部」については,転出超過が続いていたが14年では,転入超過に転じている。

5. 各区の人口動態

平成14年中の人口増加は,中央区が5,227人で最も多い(第5表)

平成14年中の人口増加を区別にみると,中央区が5,227人で最も多く,以下,北区が2,262人,豊平区が1,507人,東区が1,280人,西区が1,195人,清田区が857人,手稲区が641人,白石区が541人,厚別区が479人,南区がマイナス940人となっており,南区を除く全ての区で前年に比べて人口が増加している。

人口増加を自然増加と社会増加に区分してみると,自然増加は南区を除いた9区でプラスとなっている。また,社会増加は白石区及び南区でマイナスとなっているものの,他の8区ではプラスとなっており,特に中央区の増加が目立っている。自然増加,社会増加がともにプラスであった8区について,自然増加と社会増加の規模を比較すると,自然増加が社会増加を上回っている区は東区及び厚別区であり,その他の6区は社会増加が自然増加を上回っている。

また,社会増加がマイナスである2区のうち,白石区は自然増加の規模が社会減少の規模を上回っているため人口増加はプラスとなっている。南区については,自然増加,社会増加ともマイナスであるため人口減少となっている。

第5表 各区の人口動態

住民基本台帳による。

平成14年中

区	人口増加	自然動態			社会動態				
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市外との移動による増加	区間移動による増加	職権等増	等減
全市	13,049	4,273	15,382	11,109	8,776	8,874	-		98
中央区	5,227	195	1,439	1,244	5,032	3,017	1,965		50
北区	2,262	476	2,065	1,589	1,786	1,051	699		36
東区	1,280	945	2,427	1,482	335	896	499		62
白石区	541	738	2,004	1,266	197	909	898		208
厚別区	479	340	1,028	688	139	306	171		4
豊平区	1,507	659	1,850	1,191	848	1,171	360		37
清田区	857	212	809	597	645	94	550		1
南区	940	34	998	1,032	906	66	995		23
西区	1,195	530	1,758	1,228	665	1,057	386		6
手稲区	641	212	1,004	792	429	307	95		27

<資料> 企画調整局企画部企画調査課